

## 「弥生の巨大集落」主な展示品



写真提供 大阪府立弥生文化博物館

### 1 鳥形木製品

大阪府指定文化財

池上曾根遺跡(大阪府和泉市・泉大津市)

弥生時代中期

大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館蔵

鳥をかたどった木製品は池上曾根遺跡の発掘調査で注目され、その後日本各地の遺跡から出土している。腹部に穴がけられており、棒を刺して高く掲げたようだ。背に羽を取り付けるための切り込みを持つものもある。復元された池上曾根遺跡の大型掘立柱建物の屋根には、鳥形木製品が取り付けられている。



写真提供  
大阪府教育委員会

### 2 ヒスイ<sup>まがたま</sup>製勾玉

池上曾根遺跡(大阪府和泉市・泉大津市)

弥生時代中期

大阪府教育委員会蔵

ヒスイは、新潟県で産出したものが、遠く運ばれてきた。本資料は、長さ6.2cm、重さ120gもあり、弥生時代でも最大級のヒスイ製の勾玉である。身を飾るとともに威信材としての意味もあったのだろう。



写真撮影  
あいち朝日遺跡ミュージアム

### 3 流水文<sup>りゅうすいもん</sup>が描かれた壺形土器

唐古・鍵遺跡(奈良県田原本町)

弥生時代中期

田原本町教育委員会蔵

唐古・鍵遺跡は、近畿地方の弥生土器の変遷が明らかにされた遺跡である。唐古第一から第五様式は、今日も弥生土器編年の基準となっている。本資料は、弥生時代中期第三様式の広口壺で、体部上半には精緻な流水文<sup>せいち</sup>が描かれている。



写真撮影  
あいち朝日遺跡ミュージアム

### 4 円窓付<sup>まるまどつきどき</sup>土器

唐古・鍵遺跡(奈良県田原本町)

弥生時代中期

田原本町教育委員会蔵

朝日遺跡を中心に、尾張地方で多く出土している円窓付土器。唐古・鍵遺跡からは、この円窓付土器の他にも、東海地方を初め遠隔地の土器が多く出土しており、弥生時代拠点集落の広域にわたる交流の足跡をうかがうことができる。